

AUD / JPY 豪ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年10月の相場展望

発行日

October 1, 2026

対象期間

9月実績 / 10月展望

通貨ペア

AUD / JPY

発行頻度

Monthly

9月末レート（終値）

109.306

-4.51%（9月月間騰落率）

9月高値

114.673

9月安値

108.884

RBA金利

4.60%

BOJ金利

1.25%

今月のハイライト

9月は114.47円からスタートし、109.31円で引け、月間-4.51%。本レポートで取り上げる5通貨ペアの中では月間下落率が最大となった

日銀は9/17-18に1.00%から1.25%へ利上げ（賛成7対反対2）。円高が進み豪ドル円を大きく押し下げた。月中安値は108.88円まで下落する場面があった

RBAは9/29に4.35%から4.60%へ全会一致で利上げ。2026年4回目の利上げで15年ぶりの高水準となったが、豪ドル円の反発は限定的だった

日銀・RBAがともに利上げとなる中、豪日金利差（計算上でRBA4.60% - BOJ1.25%）は3.35ppとなった

10月 基本シナリオ レンジ

106 - 114円

RBAは次回11/3、日銀は次回10月下旬に会合。両中銀の追加利上げ観測が焦点

豪日政策金利差

3.35pp

$RBA4.60\% - BOJ1.25\% =$ 計算上の単純比較で3.35pp。前月と同水準

始値

114.470

9月最初の取引日

高値

114.673

月中最高値

安値

108.884

月中最安値

月間騰落

-4.51%

-5.164円

9月の相場動向

9月の豪ドル円は**114.47円でスタート**した。9/17-18の日銀会合で政策金利が1.25%へ引き上げられると円高が加速し、月中安値は**108.88円**まで下落する場面があった。

月末の9/29にはRBAがキャッシュレートを4.60%へ引き上げ（全会一致）、豪ドルが一時反発する場面もあったが、月全体としてみれば円高の影響が大きく、**109.31円で引け、月間-4.51%**と本レポートで取り上げる5通貨ペアの中では月間下落率が最大となった。計算上の豪日金利差（RBA4.60%－BOJ1.25%）は3.35ppとなった。

主要イベントの影響

AU RBA 9月29日 利上げ

全会一致（賛成9対反対0）でキャッシュレートを4.35%から4.60%へ0.25%引き上げ。2026年4回目の利上げで15年ぶりの高水準

7月の月次CPIベースのトリム平均インフレは3.6%と依然目標（2～3%）を上回る（四半期CPIとは異なる月次指標）。「必要な場合にはさらに利上げする」と表明

次回会合は11/3を予定。一部の市場参加者は11月の追加利上げを見込む

JP 日銀 9月17～18日 利上げ

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を

1.00%から1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。3カ月ぶりの利上げで、利上げペースが加速した形

反対した2名の委員は現時点での利上げには時期尚早との見方を示したと報じられた。植田総裁は会見で今後も機動的な判断を継続する考えを示した

利上げ後も金融環境はなお緩和的と位置づけられている。次回会合は10/29-30を予定（展望レポート公表回）

9月の総括

9月は日銀の利上げ（1.25%）とRBAの利上げ（4.60%）がともに実施された。計算上の豪日金利差（RBA4.60%－BOJ1.25%）は3.35ppと前月と同水準にとどまったが、日銀の利上げペース加速が円高材料として意識されたとみられ、豪ドル円は月間-4.51%と本レポートで取り上げる5通貨ペアの中では最大の下落率となった。10月は日銀の追加利上げ観測とRBAの追加利上げ観測が豪ドル円の方向性を見極める上での主な材料となりうる。

10月の注目ポイント

10月は**日銀の次回会合（10月下旬）**と**RBAの次回会合（11/3）**が控える。一部の市場参加者の間では11月のRBA追加利上げを見込む向きもある。日銀が追加利上げを実施すれば円高要因、RBAが追加利上げに踏み切ればシナリオ次第で豪ドル高要因となる可能性がある。中国の景気動向や商品市況の動向も資源国通貨としての豪ドルに影響を与えやすい。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	RBAが積極的な追加利上げ姿勢を示し、日銀が据え置きで豪ドル反発	110 – 116円
基本	50%	RBA・日銀ともに市場予想の範囲内でレンジ推移	106 – 114円
弱気	25%	日銀が早期追加利上げ、または商品市況下落で豪ドル円下落	102 – 110円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の追加利上げ観測（10月下旬）	中	円高	追加利上げなら豪日金利差縮小を意識した円買いが強まりやすい
RBAの追加利上げ（11/3）	中	豪ドル高	一部市場参加者は11月の追加利上げを見込む。実施されれば豪ドル高要因となりうる
商品市況・原油の下落	中	豪ドル安	資源国通貨として商品安は豪ドルの重し。リスク回避局面では下落が加速しやすい
中国景気の下振れ	中	豪ドル安	最大の貿易相手国である中国の減速は豪ドルの重しとなりやすい

10月の見通し

基本シナリオは**106～114円のレンジ**とみている。計算上の豪日金利差（RBA4.60% – BOJ1.25%）は3.35ppと引き続き相対的に大きい。日銀の利上げペース加速観測が継続すれば差の縮小が意識されやすい。RBAの次回会合（11/3）では追加利上げの可能性も意識される中、豪ドル円は方向感を探る展開が想定される。

用語解説

RBA（豪準備銀行）

オーストラリアの中央銀行。9/29に全会一致（賛成9対反対0）で4.60%へ利上げ。2026年4回目では15年ぶり高水準。次回11/3。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。豪ドル円はドル円と豪ドル米ドルの動きに影響を受けやすい。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。RBA4.60%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で3.35pp（為替の方向を保証するものではない）。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。9/17-18会合で政策金利を1.25%へ引き上げ（賛成7対反対2）。利上げペースが加速。次回は10/29-30（展望レポート公表回）。

資源国通貨

鉄鉱石や石炭など資源輸出の比率が高い国の通貨。豪ドルは商品市況や中国の景気動向の影響を受けやすい。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し金利差収益を狙う取引。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。